

# 保育専攻学生における保育実習の総合性の意義に関する一考察

久保木 亮 子

A Consideration about the synthesis-related significance of the childcare training in the  
childcare specialty student

Ryoko KUBOKI

## 要 旨

保育士養成校の学生にとって実習は大きな課題である。保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。(2010(平成22)年保育実習実施基準)と示されている。そのために子どもの発達を理解や特性について学び、実習の事前授業として「保育実習Ⅱ」においては模擬保育を取り入れている。また、保育における専門的な技術や表現方法など、授業で実践に活用できる学びを身につけ実習に対する苦手意識を和らげる。そこで、学生が自分自身の課題を見つけ課題解決に向う力を養い、不安なく実習をクリアするためのあり方を検討する。

キーワード：民話絵本、保育実践、模擬保育、協働、保育の視点

## 1. 領域：「言葉」

言葉は人間特有のコミュニケーション手段である。言葉の獲得により自らの気持ちや考え、思いや願い、知識や経験を他者に伝えることが出来る。3歳以上児の保育に関わる「ねらい」および「内容」は幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園保育・教育要領、保育所保育指針とも、ほぼ共通の内容になっている。

### 領域：「表現」

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。と保育所保育指針に示されている。

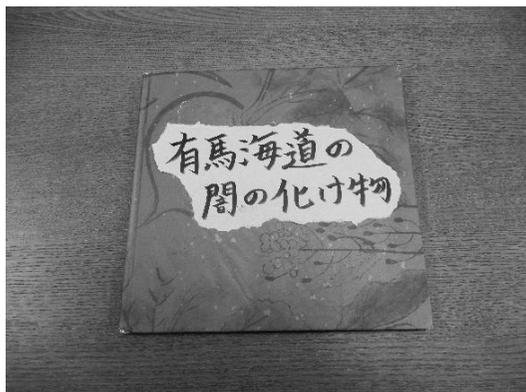
以上の内容から、保育を専攻する学生に民話絵本作り、指人形作り。そしてその発表を行ない、それらの学びから保育所実習において活用できるように実践を行なっている。

## 「民話絵本作り」を通して

保育者の優しい言葉がけ、正しく美しい言葉、絵本の読み聞かせや紙芝居、ペープサートや視聴覚教材の活用など想像の世界に夢を広げたり、現実の世界で経験したりしながら子ども達は成長していく。平成29年告示の保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載された「文化や伝統に親しむ際には、正月や節句などわが国の伝統的な遊びに親しんだりすることを通して、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること」が記載されている。そこで地域文化に親しみが持てるように地域に伝わる「民話」について興味関心を持ち、自分達の生まれ育った町の「民話絵本作り」を行なった。

### 1. 有馬街道の闇の化け物

唐櫃山（有馬街道）にはたくさんの魔物が住んでいたため唐櫃村に住む者は夜外出を控えておった。しかし、どうしても有馬街道に行く必要があった村の若者は、四鬼家の火縄をもって進んでおった。あたりは塗りつぶしたような漆黒の闇。木のざわめき、自分の足音、動物の気配。恐ろしくなった若者は四鬼様に頂いた火縄に火をつけ回しながら歩いた。すると若者の周りからざざざーと「闇」そのものが逃げていき笑い声も消えた。ある日、大阪のから商人がやって来て山越えをして有馬街道へ行こうとした。商人は村人の言うことも聞かず四鬼家の火縄をもたず手ぶらで有馬街道へ向かった。すると…。



(神戸市北区の民話)

### 2. 明石の大だこ

昔、明石の林崎の岸崎（きさき）というところに二人のお妃が住んでおった。明石の海には、足の重さが8キロから12キロもあるとてつもなく大きなタコが住みついていた。この大だこは、美しいお妃たちを何とかして海に引っ張り込んでしまおうと海辺をうろつくようになった。そこで二見浦（ふたみがうら）に住む浮須三郎左衛門（うきすさぶろうざえもん）が、この大だこを退治しようと決意した。しかし、相手は恐ろしく大きなタコ。三郎左衛門は知恵を絞りタコつぼを岩場に仕掛けた。さて、大だこは…。



(明石の民話)

### 3. 善兵衛ばなし

昔、愛媛県の宇和島に善兵衛という山菜売りの男が毎日走って、走って働いておった。ある日、男の目玉がゆるゆる、ぶかぶか緩んで目玉が落ちてしまうた。男は目玉を拾ってはめ込み、何事もなかったかのようによく働いた。ある日、大勢の人が集まり闘牛が行われていた。男は牛をよく見ようと目玉を外して傘の上に目玉を乗せて闘牛観戦しているとカラスが男の目玉を加えて飛び去って行った。さて、男の目

玉はどうなったのでしょうか…。



(愛媛県 宇和島の民話)

#### 4. カップとお不動さん

昔、カップが棲んでいる池があった。ある夏の日、男の子が池に飛び込みすいすい泳いでおった。そして、昼寝をしていたカップを起こしてしもうた。カップは一緒に泳ぎたくなくて、男の子に近づいて行った。カップに気づいた男の子はびっくりして泣き出したので、カップは「ぴぼー、ぴぼー」と泣いて仲間のカップを呼んだ。池中のカップが集まってきたので男の子は怖くて大声で泣いた。困ったカップたちは相談して男の子の友だちを集めることにした。次の日から人里から子どもを一人、また一人とさらって池に連れて行った。男の子は泣き止んだが、五人もの子どもがいなくなった人里では…。



(尾崎の民話)

#### 5. エビラの梅

千年も昔のことです。平野に住んでいた生田神社の神主が庭にあった立派な梅の木を神社の庭に植えた。寿永三年二月七日の源平合戦では、西の一の谷とともにこの生田の森が戦場になった。激しい戦の中、立派な若侍がこの梅の木の枝を一本取り、背中に矢を入れるエビラにさしていった。そして、近くの井戸を見つけ水をくんだ。「この水を生田の神様に供え、戦いの勝利をお祈りしよう」この侍は勇者として知られる梶原景季であった。



(神戸市中央区の民話)

以上、5グループに別れ「民話絵本作り」のスケジュール、役割分担などを行った。絵本の場面の構成に時間を要したが、何場面に構成するかが決まると絵を描く、文章をまとめる、色付けをする、切り紙をするなど各学生が協力していった。当初5コマで準備、作成、発表を予定していたが協働が出来にくいグループ、取り掛かりに時間がかかりすぎたグループもあり、1コマオーバーとなった。保育の現場では時間を有効利用し、計画、実践をスムーズに行わなければ、仕事がエンドレスとなり終結できなくなる等について助言を行なった。

### 「民話絵本作りの学生の感想」

- \* 保育内容「言葉」で民話絵本作りに取り組むと聞いた時、「めんどくさい」「面白くない」「今時ないわ」「民話ってなに?」と興味が持てなかった。もっと、今の子どもにあった内容のことについて学びたいと思っていたので先生に対して反抗的だった。自分達の住む地域の民話を探してくるように指示を受けただけで、真剣に探そうと思っていなかった。でも、授業の中で先生から地域の風習や町や村の起こりなどについて話を聞いていくうちに、何となく調べてみようかと思えばあちゃんに相談すると、「近所の人に聞いてみるわ」と協力してもらえることになった。普段おばあちゃんと共通の話題で話をすることが減っていたので話をするきっかけが出来たのでまあ、嬉しかったかな?と思った。
- \* 昔の話には興味もないし、なんか難しいと思った。
- \* 言葉の意味や言い回しが難しい。
- \* グループでするのでちょっと安心した。得意な人がしてくれるだろうし…。
- \* いろんな地域にいろんな民話があるんだなあと思った。
- \* やってみると意外に面白かった。絵を描くのが苦手だったけど色塗りや場面の構成には力を発揮できた。など、当初は消極的だったが仲間と協力できたからもっと工夫をしよう、他のグループより良い作品にしようとする気がでて来たようである。

### 反省と課題

- \* 予定通りに進まなくて最後のへんでバタバタしてしまった。だから読み聞かせの練習ができるくらい余裕をもって作業すればよかったと思った。
- \* 何も考えずに貼ってしまったので、先にこのページにはこの色の背景にするなど前もって決めておいた方がよかった。どんな材料でも工夫次第で面白くなるから、レパートリーを増やしておくべきだと思った。

\*時間をもっと有効に使うべきだった。

\*他のグループのを見て新しい発見もあったから、多くの人の意見を出し合った方がいい物が仕上がるんじゃないかと思った。

など、協働と時間を有効に使うことの大切さを感じとったようである。また、自分たちになかった発想や感性等を感じ合える良い機会となった。



(民話絵本発表の様子)

### 「指人形作り」を通して

自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（５）感性と表現に関する領域「表現」（８）に記載されている。そこで、上記の意味を理解し、まず学生に物語や自身の創作話を元に、指人形作りに取り組んだ。

指人形作りについて重要となるポイントや注意事項などを講義したが、実際の学びよりもユーチューブなどを参考にする学生が多かった。自身で工夫するといった創作活動でなく、ただ真似て作る、忠実に作るなどの活動になっていた。現代の学生は教科書や参考図書、講義からの学びよりインターネット、ユーチューブなどの電子機器からの学びを優先する学生が多くなってきた。これらの状況や学生の動向を理解していくために講義内容のあり方も検討していきたい。

教員は材料となる素材を学生達と話し合い軍手、フェルト、飾りつけビーズ、くるくる目玉、リボン他を準備した。糸と針は学生が準備を行いボンド使用は要相談とした。

18名の学生で1番人気のお話は、はらぺこあおむし、2番人気、おおきなかぶ、他、おべんとうばす、スイミー、くいしんぼうのゴリラなどであった。

作成途中において、「どうして保育者（学生）が指人形を作らなあかんのかわからん」と、不満を口にする学生がいた。同調する学生、作りたいという学生、強い意見に左右される学生と様々な思いが錯綜していた。子ども達が心弾ませお話の世界で遊ぶ、保育者の温かなまなざし、声でお話が進んでいく。そんな保育の環境を整えていくことの重要性を伝えていく。そして、保育所実習において子どもとの関わりの手立てとして指人形を使い保育を進めていけるように、事前準備、環境構成として位置付ける。初めての实習（保育所実習Ⅰ、2年生）が学生達にとって有意義なものになるように指人形を作り、みんなの前で演じる経験を行う。そして、脚本を見ながら単調な演じ方だけではなく、リズム感、間、その場面にあった言葉選びなどを体験し緊張感や恥ずかしさを和らげる一助になることを願っている。

## 「エプロンシアター作り」を通して

エプロンシアター作りに関しては「保育所実習Ⅱ、3年生」の学生の事前授業・指導での課題とし、4月のオリエンテーション時に説明して7月下旬提出とした。作成は学生自身が保育所実習で実際に子ども達の前で演じ、保育所実習での困り感を軽減できることを願って実践している。(保育所実習では、お楽しみ会や集会などの催し物の機会があり、実習生が演じることが多い。)

エプロンシアター提出時に、グループで作品を見せ合い、他の学生がどのように工夫しているのを感じ合うためである。「すごい〜!!」「きらきら光るのが付いてる」「いっぱい小物を作ってる」など学生同士で学びを吸収しあっていた。単に作るだけでなく互いのよさ、自分も真似してやってみようという認め合いや保育者(保育専攻学生)として質の向上に繋がると考えられる。これらの学びが保育実践の場で役立つのである。各自、エプロンシアターを演じる練習を行い、4名の学生に代表してみんなの前で演じてもらった。客(学生)の様子を見るゆとりもなく必死でシナリオを呼んでいる。(3名)

客(学生)を取り込んで話しかけたり、間をとりながら演じるなど拍手をもらい大きな自信に繋がった学生。(1名)ここで実証されたのは丁寧に工夫した作品を作りながらも演じることに困難を抱えたり、登場人物になり切れなかったりする。実習までに繰り返し練習し自信を持って演じられるようになってほしい。

## 2. 模擬保育の意義と取り組み

学生にとって実習は大きな課題である。そのため、演習科目として実習の事前指導を行なうが、それでも漠然とした不安を抱く学生が多い。そこでより、現場に即した具体的な学びとして「保育実習Ⅱ」の事前指導で模擬保育を導入している。この実践的な学びを通して学生の抱える不安を解決していけるように担当教員がその専門性を生かして①乳児の遊び、②表現遊び、③運動遊び、④造形遊びの4グループに分かれ模擬保育を実践する。1グループ27名を9班に分け、1回は保育者、2回は観察者役が出来るようにまた、全てのグループが4人の教員の指導が受けられるように設定した。ここでは、②運動遊びを紹介する。

### < 模擬保育の様子 >

学生にとっては、5歳児の指導案を作成しようとする時、保育をしていく中で子どもとの関わりや反応に手ごたえがあり、遊びの内容も考えやすく発達の姿は比較的捉えやすいと言える。指導案に記載されている「子どもの姿」は、「じゃんけんのルールを理解し遊びの中で、じゃんけんを使って物事を決めようとする姿が見られる。」としている。そして、「ねらい」は「友達とのつながりを広げ集団で活動することを楽しむ。」と設定している。模擬保育では「指導案」に記載されている活動に入る前からの子どもの行動の様子や、それに対する保育者の言葉かけなどの場面も示し、子ども役になった学生は、活動への参加に対する子どもの気持ちを想定しながら表現していた。また、先生役の学生は保育開始の集まりになかなか集まってこない子ども役の学生に対して、誘いかけの言葉や「じゃんけん列車」の遊びの説明やルールを知らせる時は言葉だけでなく、子どもの動きを確認しながら参加したいと思えるように具体的に伝えていた。遊びの中ではピアノの速度や音程を変えたり、「じゃんけん列車」の先頭になった子どもだけが複数回「じゃんけん」ができるのではなく、たくさんの子どもが「じゃんけん」の楽しさが味わえるよう途中で列の解散を行うなど遊び方に変化をつける工夫ができていた。また、「じゃんけん列車」の遊びから次の活動へ移る際の言葉かけなど、観察している学生が参考になる点が多い模擬保育であった。

## \*客観的視点で保育を見る（相互の学び）

模擬保育を客観的に見る中で、自分では気づかない点や援助の仕方を知ったり、身近な友だちが模擬保育をしている姿を見たりして、自分も「頑張ろう！」と良い刺激になったと言える。模擬保育をする前提の指導案作成であったので、どのグループも活発に検討が行われた。学生同士、それぞれが他の学生の子どもの発達理解、保育者の援助の在り方など保育観にも触れることができ、環境構成、援助の視点、記述の仕方などの学びが深まった。

## 3. 保育所実習での学び

模擬保育の経験を柔軟に取り入れ、自分の中で咀嚼して様々な場面で応用することができた。指導案作りの経験が保育者の援助や子どもの様子を想定することや、実習ノートの記述や活動の進め方、活動の内容など新たな発見にも繋がった。等という意見がある中、模擬保育は全員学生だったので、実際には様々な個性の子どもが多く難しかった。担当が0歳児だったので模擬保育の経験を活かすことができなかった。という臨機応変に対応できない現実が浮き彫りとなった。また、保育教材をたくさん準備しておきながら実習で活用しない、できない学生が多いのが残念である。活用しなかった理由としてエプロンシアター、民話絵本、指人形等を演じる場面がなかったという。実習生自身からアピールする積極性を持ち、保育所実習での経験や学びから、学生一人一人が自身の課題と向き合い、保育が楽しいと感じられるようになってほしい。

## おわりに

「保育専攻学生と保育実習の総合性」という視点に関して、学生の様々な学びは有意であったと言える。グループで協力して模擬保育を行った経験は、実習において指導案作成、立案に活用されている。他者の模擬保育を観察することで、保育において様々な視点があることに気づき、「主体的で深い学び」へと繋がったと言える。しかし、学生自身が準備した保育教材の活用が豊かな保育に繋がることへの気づきはまだまだ低いように感じる。これらを実践の場で生かすためには柔軟な応用力や対応性等、養成校として学生育成に課題を感じる。今後、さらなる授業改善を行い保育者になりたいという学生を養成していきたい。

## 参考文献

- 全国保育士養成協議会 「保育実習指導のミニマムスタンダード Ver 2」中央法規  
保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領  
猪田裕子、塩津恵理子、久保木亮子 保育者における模擬保育の意義に関する一考察（1）  
教職課程・実習支援センター研究年報創刊号 2018年  
有馬街道の闇の化け物 神戸市北区の民話  
明石の大だこ 明石の民話  
善兵衛ばなし 愛媛県 宇和島の民話  
カップとお不動さん 尼崎の民話  
エビラの梅 神戸市中央区の民話